

2021年度のテキストです

博物館教育論2021

【授業の構成】前半のみ。後半は中村先生の担当

- 第1講 9/29 教育と学習の理論
- 第2講 10/6 発達と社会化
- 第3講 10/13 義務教育と学校
- 第4講 10/20 学校の社会学
- 第5講 10/27 子どもと権利
- 第6講 11/4 男の子と女の子【木曜日4時限】でよいですか？
- 第7講 11/10 広場がつくる博物館教育
- 第8講 遠隔 教育の資源はどこにある

第1講 教育と学習の理論

0. 博物館概論定期試験の返却

ひとりずつ呼ぶので受け取りに来ること。待っている間に3の課題を作成する。

博

- 1) 概要は定義と歴史の2つから記す。歴史だけの回答多数
- 2) 説明するには別の言葉を用いることが必要。展示なら、並べて見せる、など
- 3) 学芸員の仕事は博物館法第4条。ポイントは「博物館資料の」と限定するか否か
- 4) 収蔵庫、空間名称、出入口の名称、不明な部分は作らない

1. 教育と学習

1) 学習とは

がくしゅう 一しふ 0【学習】 スーパー大辞林

(名) スル

- ① まなびおさめること。勉強すること。「新しい教科を一する」
- ② 【生】 生後の反復した経験によって、個々の個体の行動に環境に対して適応した変化が現れる過程。ヒトでは社会的生活に関与するほとんどすべての行動がこれによって習得される。
- ③ 【心】 過去の経験によって行動の仕方がある程度永続的に変容すること。新しい習慣が形成されること。
- ④ 【教】 新しい知識の獲得、感情の深化、よき習慣の形成などの目標に向かって努力を伴って展開される意識的行動。

ゾウリムシでも学習する。この場合の学習は「記憶行動」

学習は学習者が主体的におこなう。教育行為が不在でも学習は成立する。

2) 教育とは

きょういく けう一 0【教育】

(名) スル

他人に対して意図的な働きかけを行うことによって、その人を望ましい方向へ変化させること。広義には、人間形成に作用するすべての精神的影響をいう。その活動が行われる場により、家庭教育・学校教育・社会教育に大別される。「子供を一する」「義務一」「一のある人」成人

「家庭教育・学校教育・社会教育」は日本政府＝文部科学省の考え。3つを合わせて「生涯学習」となる
法制度上の話は生涯学習概論で説明するので

3) 「学ぶ」という言葉

「学ぶ」や「学び」という言葉は日常語ではない。学校や教育関係者が使うのみとあってよい。

「学ぶ」は真似る [まねる] > 学ぶ [まねぶ] から派生した言葉のよう

日常語での学習行動は「習う」「知る」「真似る」、学習した結果は「できる」

「気づき」という言い方も比較的新しい。「ファシリテーター」とも多用されるようになったのは平成以降
講演者と参加者のあいだを取り持ち、議論を盛り上げる役目
他人に「教えられた」のではなく、自ら「気づいた」という意味であるが、以前の用法では「わかった」だろう
英語で「知る」「わかる」はlearnを使う。

2. 教育学の実際

教育学は固有の方法を持たない。心理学や歴史学（文献史学）、社会学などの方法を用いている。これは魚類学のように対象からの命名である。教科教育法などは経験知の集合といえるかも知れない。専門分野はちなみに考古学や歴史学は方法からの命名であり、古い新しいとは無関係である。平成の考古学も可能。

1) 教職課程の概説書から

安彦忠彦・藤井千春・田中博之編. 2020. 新版よくわかる教育学原論. ミネルヴァ書房, 京都. 255pp.

安彦忠彦・石堂常世. 2020. 最新教育原理. 勁草書房, 東京. 235pp.

目次を別ページに掲載。

* 書籍の紹介の仕方は理系の論文で一般的な (= 広く用いられる) 引用方法におなじ。

** 日本語の書籍には末尾に書名や著者名、出版者などが記された欄 (らん) がある。これを奥付 (おくづけ) といい、そのような情報を書誌 (しょじ) 情報という。刷 (さつ、すり) は印刷の回数を表し、版 (はん) は内容改訂の回数を示す。刷でも誤字脱字の訂正程度はある。

2) 学術情報課程での授業内容

宇仁が担当する科目では教育関係の授業は下の様に分けている。

博物館教育論：言葉の整理、教育の思想と理論、基本的人権、男女同権；後半は博物館での教育

生涯学習概論：教育行政、教育委員会、学校制度、教育指導要領、社会教育、多文化教育、ジェンダーギャップ

3. 課題

こちらが

主要な問い

学習成果の目標設定と測定方法を述べよ。ネットやスマホなど何を使っても良い。目標各問200-400字、回答用紙に手書きのこと。授業時間中、または次回の授業時間に提出。

1) 生物多様性の保全について理解しているかどうか

2) 日本の歴史について理解しているかどうか

3) 男女同権について理解しているかどうか

新版 よくわかる教育学原論

序 教育学入門

1 教育学の研究対象・領域

2 教育学の研究方法

I 教育の本質

1 教育と文化

2 教育と子ども観

3 教育と学校・教師

4 教育と学習

5 教育と人間形成

6 教育と国家・社会

II 教育の歴史

1 古代ギリシアの教育—全体主義・軍国主義と民主主義・市民主義の教育

2 近代市民社会と公教育制度

3 新教育運動

4 現代の学校教育の動向

5 日本の江戸時代の教育

6 日本の公教育制度の成立

7 大正自由教育

8 戦後占領期の教育改革

9 東西の冷戦構造と教育政策の転換

10 高度成長と学校問題の発生

III 教育の理念

1 西洋の教育思想の潮流

2 日本の教育思想の潮流

3 ソクラテス,プラトン

4 ロック,ルソー

5 ペスタロッチ

6 ヘルバルト

7 デューイ

8 フレーベル,モンテッソーリ

9 シュタイナー,フレネ,ニール

10 ポストモダンと教育思想

IV 教育の制度

1 西洋の古代・中世の学校

2 近代的学校制度と学校体系

3 各国の教育制度とその改革

4 日本の教育制度とその改革

V 学校経営

1 学校経営と組織マネジメント

2 カリキュラム・マネジメント

3 学年経営と学級経営

4 コミュニティ・スクール

5 学校・教職員の法的責任と保護

VI 教員養成と教職

1 教員養成と教員免許状

2 教師の身分と職務

3 教職における教師の成長

4 教師教育と研修

5 地域・保護者への対応

6 教師の多忙化とメンタルヘルス

VII 教育課程

1 教育課程とその類型

2 学習指導要領

3 社会に開かれた教育課程

4 戦後社会の動向と学習指導要領の変遷

5 隠されたカリキュラム

6 学校間の連携・接続と一貫カリキュラム

7 教育の諸課題と教育課程

VIII 学力論

1 「知識基盤社会」の時代に求められる学力

2 国際学力調査及び全国学力・学習状況調査

3 「効果のある学校」

4 主体的・対話的で深い学び

5 家庭の教育力に見る私教育の現状と公教育の役割

6 資質・能力と習得・活用・探究

IX 学習指導

1 教育方法の理論的基礎

2 授業の構造と設計

3 情報教育と教材・教具

4 学習の評価・評定とその方法

5 アクティブ・ラーニング

6 シンキングツール

X 生徒指導・進路指導

1 生徒指導

2 進路指導・キャリア教育

3 職場体験・インターンシップ

4 部活動

XI 学級経営と集団づくり

1 学級経営のねらいと領域

2 「学級経営の充実」と学力向上

3 若手教員の学級マネジメント力の向上

4 学級づくりのカリキュラム編成と校内研修

5 学級構造の分析とその道具の活用——Q-Uテスト

XII 道徳,特別活動,総合的な学習/探究の時間,外国語活動,課外活動,その他

1 特別の教科 道徳

2 特別活動の意義と内容

3 「総合的な学習/探究の時間」とそのねらい

4 小学校「外国語活動」「外国語」

5 課外活動

6 防災教育

7 主権者教育

8 多文化教育・第二言語教育

9 子どもの哲学対話

10 子どもの居場所・学びの場としての学校建築

XIII 特別支援教育

1 特別支援教育の歴史と理念

2 特別支援教育の制度と法整備

3 特別支援教育のカリキュラム

4 発達障害と教育

5 学習障害とその理解

6 ADHDとその理解

7 自閉スペクトラム症とその理解

8 発達障害のある子どもの才能を活かす教育

XIV 教育に関する行政と財政

1 教育行政の原理

2 文部科学省の組織と役割

3 地方教育委員会の役割と組織

4 国と地方の教育財政及びその分担

5 世界の教育行政

6 就学支援と奨学金制度

XV 教育に関する法規

1 日本国憲法と教育基本法

2 学校教育法及び教育関連諸法規

3 教育法規をめぐる諸論点

4 教育に関する宣言・条約

5 「子どもの権利条約」

XVI 子どもの成長・生活をめぐる諸問題

1 子どもの成長と環境

2 子どもの遊びとその意義

3 子どもの生活の変化と「社会力」

4 「いじめ」

5 「不登校」「ひきこもり」

6 少年非行と矯正教育

7 性の多様性

8 子ども観・子育て観の国際比較

9 幼児教育をめぐる諸課題

10 子ども虐待

11 スクールソーシャルワーク

XVII 家庭教育,地域の教育,生涯教育

1 家庭の教育的機能とその背景

2 現代の家族と子育てをめぐる問題

3 伝統的な共同体における教育

4 地域の変貌と教育力の低下

5 生涯教育・生涯学習社会

6 生涯学習社会のための制度と施設

教職の最初の教科書は、歴史（思想）・制度（行政）・教室（教科）のような構成
博物館教育論（前半） 生涯学習概論 教育論（後半）

最新教育原理 第2版

2 社会教育・生涯学習制度

4 外国語活動の評価のあり方

3 教育行財政の制度

5 中学校との接続

第1部 教育の理論と展開

第1章 教育の目的と本質[石堂常世]

- 1 教育の目的のとらえ方
- 2 3つの時間軸と人間の形成
- 3 「教育」の語彙が示唆する意味
- 4 教育の多様な見方から人間化のパターンを理解する
- 5 教育の目的措定の今日的困難性
- 6 教育の責任性と可能性
- 7 古典的教育論と教育の目的
- 8 現代先端科学と人間性の問題：自然と規範を問う

第7章 主要国の学校制度と教育改革[長島啓記]

- 1 主要国の学校制度
- 2 主要国の教育改革

第8章 学校と教師[油布佐和子]

- 1 教師と教員
- 2 教員の現在
- 3 学校の現在：「学校神話」の崩壊へ
- 4 教育改革
- 5 おわりに：改革期の学校と教師

第14章 生徒指導と教育相談・キャリア教育と進路指導[本田恵子・三村隆男]

- 1 生徒指導とは
- 2 教育相談とは
- 3 スクールカウンセリングとは
- 4 児童生徒の健全育成に向けて
- 5 これからの生徒指導の体制と方法
- 6 キャリア教育の系譜
- 7 キャリア教育の現代的意義
- 8 進路指導とキャリア教育
- 9 新学習指導要領とキャリア教育

第2章 教育と人間の成長・発達[河村茂雄]

- 1 教育への教育心理学からのアプローチ
- 2 今日の学校現場の子どもの発達上の問題

第9章 教育の内容と教育課程[安彦忠彦]

- 1 教育の内容
- 2 教育課程の理論と実際
- 3 最近の教育課程研究

第15章 特別支援教育の原理と方法[山口幸一郎]

- 1 障害のある子どもの教育制度等の変遷
- 2 特別支援教育の理念と体制整備及び取り組み
- 3 学校における特別支援教育への対応
- 4 特別支援教育を支える法律等
- 5 今後の課題と展望

第3章 社会の変動と教育[菊地栄治]

- 1 3つの歴史的転換点
- 2 第三の転換期へ
- 3 全国調査からのメッセージ
- 4 第三期の教育改革：新自由主義を問い直す
- 5 教育と社会変動：新たな関係性の模索

第10章 教育の方法と技術[三尾忠男]

- 1 授業の3段階
- 2 授業の技術
- 3 教育におけるメディアの種類
- 4 ICT活用の授業づくり
- 5 教育を工学する

参考文献一覧――さらに勉学を深めたい人へ
あとがき
人名索引
事項索引

第4章 日本の教育――歴史と展開[湯川次義]

- 1 古代から近世に至る学校教育
- 2 近代教育の始まりと発展
- 3 民主的教育制度の確立とその後の教育

第11章 道徳教育・特別活動の原理と方法[古賀毅・佐藤隆之]

- 1 道徳教育の枠組と実施体制
- 2 道徳教育の実践
- 3 道徳教育の今日的課題
- 4 特別活動とは
- 5 特別活動の目標と意義
- 6 特別活動の内容と方法
- 7 特別活動の課題

第5章 世界の教育――歴史と展望[藤井千春]

- 1 古代ギリシアの教育と教育思想
- 2 ヨーロッパ中世の教育と教育思想
- 3 近代教育思想の誕生
- 4 欧米諸国における公教育制度の成立
- 5 新教育運動の主張と展開

第12章 総合的な学習の時間の原理と方法[小林宏己]

- 1 教育課程における総合的な学習の時間のねらいと位置づけ
- 2 総合的な学習の内容と方法のあり方

第2部 教育の実際と方法

第6章 日本の教育制度と行政[小松茂久]

- 1 学校教育制度

第13章 外国語活動の原理と方法[松川禮子]

- 1 小学校外国語活動設置の背景と経緯
- 2 小学校外国語活動の目標と内容
- 3 指導方法と共通教材『英語ノート』の活用